

---

# 魔法少女リリカルなのは 次元を超えし転生者

十六夜・零夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 次元を超えし転生者

### 【Nコード】

N1274BA

### 【作者名】

十六夜・零夜

### 【あらすじ】

現代系大学生オタクであった時枝楓は少女のパンツに埋もれて死んだ。

しかし、それが輪廻から弾かれた死であった為、自称神の実験の協力者として『リリカルなのは』の世界に転生することになった。

所謂ハーレム系、チート系、おそく主人公最強系(?)の作品です。

苦手な人はすぐにでも後方に直進してください。

## 第1話 転生理由、実験目的（前書き）

初めまして・・・十六夜・零夜いざよひ・ねいぢと申します。

初投稿です。

更新ペースは出来るだけ速くしたいと思います。

## 第1話 転生理由、実験目的

俺の名前は時枝楓<sup>ときえだかえで</sup>、漫画やゲームが好きな所謂オタクと呼ばれる存在であるし、むしろオタクであることを誇りに思っている一般的な大学生だった。

そう、「だった」だ。

俺が夏のコミケに行った帰り、発車する電車に乗り込もうと駅の階段を掛け登ったとき事件は起きた。

前方にいた中学生らしき少女が俺と同様に電車に乗りこむために走っていたが、階段に足を躓いてしまいこちらに落下してきたわけだ。

俺は避ける事も可能だったが、その時見てしまった。

彼女が緑色の縞パンを履いていたことに・・・

結果、俺は彼女の下敷きになって階段からずり落ち何度も頭を強打して死んだ。

オカズになるだろうブツを楽しみにしていた分、本能的にリアルな刺激に弱っていたらしい。

最後に今日買ってきた同人誌だけでも読みたかった。そこで俺の意識は飛んだ。

「あゝ、悪い。キミ殺しちゃった」



「あ、因みに俺、いわゆる神とか言うやつ。短いながらもよろしく」  
男はそう言いながら丁寧に名刺を渡してきた。

「神？ 神ってあれか？ この世の事は全て知っているとかが、人をおもちやか何かにはしか見ていないとか言うあの神か！？」

生憎、マンガやアニメの二次創作にも精通している俺としては神が間違えて殺しちゃった主人公をマンガやアニメの世界に転生させてチートにしてくれるというある種のテンプレ神は実際には無いと思っ  
ている。否定的な訳ではない、現実的に考えてそんな簡単に転生なんて出来る訳が無いからだ。

「あゝ、キミそういう部類の人間か。まあ実際そういう神もいるよ、でも俺は人をおもちやと見ている訳ではないし、謝罪をしてチートにしてやるうとかいう君の考えている神でもない」

俺の心を読んでか、余計な補足説明をしながら自称神は話を続けた。

「俺は所謂研究者の部類に入る。人がどのような状況でどのようなことを考え、どのような選択をするか。誕生を起点として死を終点とする人の生にはどの位の法則性を持ち、特異性を持つか。なんていう研究をしている奴も居る。・・・自称じゃねーよ、自称じゃ」  
心のツツコミにも答えつつ、俺に説明する神。無駄に細かいのかもしれない。

「ふーん、で。アンタは何の研究をしているわけ？」  
興味は無いが俺がここに居る理由を知りたいため、情報を得ようとした。

「俺の研究は少々特殊でな、人と人の関わり合いについてだ。」

人と人との関わり合い？ どういう事だ？

「人は関わり合いを求める種族だって言うのは、お前さん自身今まで生きていて何度も経験したことがあるだろう。話をする、手を握る、同じ行動を取る、誰かを助ける等、その行動は五万とある」

確かに、ダチとつるむ時だって同じ行動を取ることがある。馬鹿やったり、熱く語り合ったりといった事をやった事もあるしな。

「そして、その一つ一つの行動で人の生とは終着点異なる。所がだ、これは実際に生きている人に当たるものであり、創作物に当たるものではないということは判るだろうか？」

創作物？ アニゲー関連しか知らんが、確かにそうだな。態々半生を描くことなんて無いだろうし。

「一つは物語としての強制力という物だ。創作物の作者の世界は既に一定のことが定められていて、それを破る行為は決して起こらない。また例え定義を破る行動を起こしても、そのしわ寄せが予定外のところで出てきて結果を修正しようとする・・・」  
とかなり長い時間、自称神の研究について熱く語られた。

「要するにだ、創作物に掛かる強制力を完全に無視した存在を置く事で創作物の登場人物にどの様に関わり変化を起こすことが出来るかという研究だ。」

「・・・で、俺はどっかの創作物の世界に転生して登場人物と関わり、創作物の結末を変えることが出来るかって事を実験する

んだろ」

大体予想が出来たが、あえて目的とか態々言うか？ 普通。

「勿論だ、共同実験者、今回の場合主要実験者となるキミに実験内容を伝えなければ、実験が成立しないからだよ。そして、キミが今回転生してもらおう主な世界は「魔法少女リリカルなのは」の世界だ」

なのはか、一応ゲームまでしつかりやっている俺だけだ。あとフェイトは俺の嫁兼妹。

「まあ、一度不慮とはいえ死んだ身だし、記憶持ちで転生して、二次元に入れるって考えれば楽しそうだから、やっても良いが何か能力とかは付かないのか？」

「やっぱり魔力ランクSSSとか御神流継承者とかレアスキル持ちとか有ったら面白いじゃんか。」

「パンツ見て、不慮の死とかほざいてられる精神は大した物だが、そんなスキルは今回の実験には邪魔になる恐れがあるから控えて貰うぞ。」

なん…だと?!?!?

「おい、魔法がある世界に行くのに魔法が使えないってヤバ過ぎだろ」

ただでさえ、管理局の上の奴等が真つ黒なのに改変とか出来んのか？

そう考えていると自称神は鼻で笑いながら言い放つ。



「最初に言ったが、人と人との関わりが今回の実験の肝だ。素質として魔力がSSSになったり、身体能力も人類の限界値まであげる事は可能では有るが、結局は努力をしなければ一般人。弛まぬ研鑽を続ければ、一流になるだろう。」

一応、いける事は行けんのかよ。それはそれで十分チートな気がするけどな。

「後は、レアスキルでは無いが女縁はかなり期待して良いぞ。特に主要キャラにはドンドン関われ。ハーレムなんて原作崩壊は研究に大きく進展を見せられるから、身体が保つまでやってみな」

とまあ、完全に遊んでいるような感じで言い放ちやがった。

「…了解。努力してモテモテになってストーリーに介入しろって事で良いわけだな」

これが本当のギャルゲーってか？ そういつて立ち上がると、自称神の横に扉が現れる。ここから転生するって感じかな。

「そうだ、お前の力を分かりやすく伝えるために意識下でパラメータがチェック出来るような事にはしてるから色々と参考に見てみるが良い。それじゃ実験開始だ」

自称神はそう言うと、持っていたスイッチを押した。

ぱかっ！

扉の前に立つ俺の真下に穴が開いた。

「……………はぁ？」

思ったのが遅いのか、動いたのが遅いのか、俺は穴に何の抵抗もなく落ちた。

「うおおおおおいいい!?!?!?!?」

「ふむ、『テンプレートから急に外れた場合の人間の心理状況、行動』の実験だったが……あまり良いリアクションは取れなかった様だ」

小さくなる自称神の姿を目にして俺は『リリカルなのは』の世界に転生した。

**第1話 転生理由、実験目的（後書き）**

第1話でした。

次回から原作世界へ転生予定。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1274ba/>

---

魔法少女リリカルなのは 次元を超えし転生者

2012年1月3日02時58分発行